

科目名	生体力学						
科目名(英)	Biomechanics						
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	園田 剛之		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	1. 運動力学の基礎を理解し説明できる。2. 運動の法則、剛体に働く力を説明できる。3. 人の運動を力学的に捉え、生体への力の作用を分析できる視点を持つ。4. 動作や介助について必要な力学を体験し説明できる。						
授業形式	講義: ○	演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				運動力学の基礎を理解し説明できる。	
	○	○				運動の法則、剛体に働く力を説明できる。	
	○	○				人の運動を力学的に捉え、生体への力の作用を分析できる視点を持つ。	
	○	○				動作や介助について必要な力学を体験し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	運動力学の基礎① 生体力学とは… ・力学の単位			小テスト対策 授業ノート復習		
	2	運動力学の基礎② 力学の構成			小テスト対策 授業ノート復習		
	3	運動力学の基礎③ 力の合成と分解			小テスト対策 授業ノート復習		
	4	剛体に働く力① モーメント(トルク)			小テスト対策 授業ノート復習		
	5	剛体に働く力② てこの種類			小テスト対策 授業ノート復習		
	6	剛体に働く力③ 関節角度と力の関係			小テスト対策 授業ノート復習		
	7	運動の法則① 運動の3つの法則			小テスト対策 授業ノート復習		
	8	運動の法則② 重力加速度と重量			小テスト対策 授業ノート復習		
	9	重心と支持基底面			小テスト対策 授業ノート復習		
	10	姿勢と筋活動			小テスト対策 授業ノート復習		
	11	歩行動作と床反力①			小テスト対策 授業ノート復習		
	12	歩行動作と床反力②			小テスト対策 授業ノート復習		
	13	演習問題・国家試験対策①			小テスト対策 授業ノート復習		
	14	演習問題・国家試験対策②			小テスト対策 授業ノート復習		
15	全体復習とまとめ			これまでの授業ノートを復習しておくこと。			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
履修上の注意							

科目名	運動学Ⅱ						
科目名(英)	KINESIOLOGY						
単位数	2単位	時間数	60時間	担当者	松岡美紀		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	理学療法士の評価治療介入の基礎となる身体運動の知識(下肢 体幹)を修得し、下肢関節の運動学的特徴と正常歩行の運動学的特徴を理解することを目標とする。また、講義内容に対する理解度を国家試験問題も含め、確認を行う。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				下肢・体幹の各関節の構造・運動について説明できる。	
	○	○				正常歩行の運動学的特徴について説明できる。	
	○	○				該当する範囲の国家試験が理解できる。(70%以上)	
テキスト・教材 参考図書	1)中村隆一 他 著:基礎運動学 第6版 補訂 2)山崎敦 著:PTOTビジュアルテキスト 運動学 第1版 3)河合良訓 監:骨単(語源から覚える解剖学英単語集) 4)河合良訓 監:肉単(語源から覚える解剖学英単語集)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	上肢帯復習①			シラバス内容を事前に確認しておくこと		
	2	上肢帯復習②			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	3	体幹・下肢帯の構造 脊柱と骨盤の関係			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	4	骨盤 股関節の構造			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	5	股関節の安定要素と運動要素(筋の走行)			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	6	膝関節 構造と運動の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	7	膝関節の安定要素と運動要素			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	8	足部 各関節の構造の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	9	足部の運動名称と導く筋の理解			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	10	脊柱の構造			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	11	脊柱・体幹の筋と運動要素			これまでの授業資料を復習しておくこと		
	12	歩行動作に関する運動力学の基礎			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	13	正常歩行の歩行周期・関節運動・筋活動			教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと		
	14	国家試験問題			これまでの授業資料を復習しておくこと		
15	全体復習+試験対策			これまでの授業資料を復習しておくこと			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)各单元ごとに小テストを実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	◎				60%
	小テスト	◎	◎				40%
履修上の注意							

科目名	病理学						
科目名(英)	Pathology						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	自見 至郎		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きを基礎を習得した上に位置する病理学は、病気の原因や病態を知るため、様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになることを最終目標とする。細胞の機能の理解や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになることを目的とする。						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
					※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
		○				基礎医学である解剖学、生理学などにより体の仕組みと働きを基礎を習得した上に位置する病理学において、病気の原因や病態を知る。	
		○				様々な疾患を遺伝学的、構造学的、細胞学的、免疫学的、腫瘍学的に理解できるようになる。	
		○				細胞の機能の理解や、一般的に知られる病気の名前とその病態を理解し、説明できるようになる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	細胞・組織・器官				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	病理学概論(病因と組織変化)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	内因と外因・病気の種類				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	先天異常、遺伝子・染色体異常				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	代謝障害と細胞および組織変化(変性と壊死)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	脂質、タンパク質代謝障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	タンパク質代謝における肝臓と腎臓の役割				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	ビリルビン代謝障害、循環障害1(充血、うっ血、貧血、虚血)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	循環障害2(血栓症、塞栓症、梗塞、浮腫)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	炎症、免疫				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	アレルギー				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	免疫不全、移植				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	腫瘍1				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	腫瘍2				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	15	まとめ					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート 発表・作品						
履修上の注意							

科目名	臨床薬理栄養学						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	花田 輝代・片岡 彩子		
実施年度	2022 年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	本科目は、薬物療法における基礎知識の習得や、リハビリテーション栄養に関する基礎知識と実践方法について理解することを目的とする。また、疾患別の対処法の違いなどを学ぶことで臨床で実践できるようにする。						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				薬についての基礎知識や体内でどのように吸収、代謝、排泄されるのかを知る。	
	○	○				汎用される薬物の作用機序について理解し説明できる。	
	○	○				栄養についての基礎知識や5大栄養素の役割について学ぶ。	
	○	○				各病態における栄養の作用機序について理解し説明できる。	
	○	○				代表的疾患を通して薬理学、栄養学の知識を応用できるようにする。	
テキスト・教材 参考図書	リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 POSのためのリハビリテーション栄養 リハベーシック 薬理学・臨床薬理学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	薬理学総論				教科書にて復習する。	
	2	(薬理学の役割と目的、薬物の体内動態および薬理作用、副作用など)				教科書にて復習する。	
	3	薬の作用に影響する因子				教科書にて復習する。	
	4	感染・炎症の制御と薬物療法				教科書にて復習する。	
	5	神経疾患の薬物療法				教科書にて復習する。	
	6	精神疾患の薬物療法				教科書にて復習する。	
	7	循環器系疾患の薬物療法				教科書にて復習する。	
	8	血栓症の薬物療法				教科書にて復習する。	
	9	栄養の基礎:5大栄養素の役割				教科書にて復習する。	
	10	栄養の基礎:運動時の栄養、栄養不良時の栄養				教科書にて復習する。	
	11	栄養のスクリーニング、評価、マネジメントについて				教科書にて復習する。	
	12	主な病態の栄養療法:低栄養者、フレイル、サルコペニア、メタボリックシンドローム				教科書にて復習する。	
	13	主な疾患の栄養療法:中枢神経疾患				教科書にて復習する。	
	14	主な疾患の栄養療法:整形外科疾患				教科書にて復習する。	
15	主な疾患の栄養療法:呼吸・循環器疾患、がん				教科書にて復習する。		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
発表・作品							
履修上の注意							

科目名	内科学						
科目名(英)	Internal medicine						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	平田 秀紀		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法実施において不可欠な、患者の医学情報や病気の成り立ちを理解する。</li> <li>・理学療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。</li> <li>・内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。</li> <li>・内科疾患の症状を理解することで、理学療法治療上でのリスク管理を理解する。</li> </ul>						
授業形式	講義:	○	演習:		実習:		
					実技:		
	※ 主たる方法:○ その他:△						
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				理学療法士が関わる内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○				理学療法の中で内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 内科学						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	診断と治療・症候学				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	2	循環器疾患 総論				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	3	循環器疾患 各論1				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	4	循環器疾患 各論2				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	5	呼吸器疾患 総論				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	6	呼吸器疾患 各論1				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	7	呼吸器疾患 各論2				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	8	消化器疾患				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	9	肝胆膵疾患				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	10	代謝性疾患				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	11	腎・泌尿器疾患総論				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	12	腎・泌尿器疾患各論				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	13	血液・造血器疾患				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	14	膠原病・アレルギー疾患				学習した疾患について復習して理解を深めること	
	15	感染症疾患				学習した疾患について復習して理解を深めること	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
発表・作品							
履修上の注意							

科目名	神経内科学 I						
科目名(英)	Neurological Medicine I						
単位数	1 単位	時間数	30時間	担当者	片伯部 裕次郎		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。</li> <li>・神経内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。</li> <li>・神経内科疾患の症状を理解することで、作業療法治療上でのリスク管理を理解する。</li> </ul>						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				神経内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				作業療法士が関わる神経内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○		○		作業療法の中で神経内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院:標準理学療法学・作業療法学 ~専門基礎分野~ 神経内科学(補助教科書)PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート:医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	リハの総論。神経内科におけるリハビリ評価方法。			教科書で予習しておく。		
	2	神経内科に必要な生理、病理、解剖学			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	3	脳Ⅸ神経(前編)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	4	脳Ⅸ神経(後編)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	5	神経内科の検査方法。筋電図、筋生検、CT、MRIなど			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	6	意識障害、記憶			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	7	筋の萎縮、錐体路症状、中枢性麻痺と末梢性麻痺			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	8	錐体外路と不随意運動			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	9	感覚系			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	10	失調症の検査と診断			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	11	高次脳機能障害1(失認、失語、失行)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	12	高次脳機能障害2(失認、失語、失行)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	13	嚥下機能、気管切開、胃ろう			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	14	まとめ①(1回~6回)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	15	まとめ①(7回~12回)					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート 発表・作品						
履修上の注意							

科目名	神経内科学 I						
科目名(英)	Neurological Medicine I						
単位数	1 単位	時間数	30時間	担当者	片伯部 裕次郎		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理学療法が関わる障がい、どのような疾患から起因するかを知る。</li> <li>・神経内科疾患の成り立ちを知ること、患者分析に必要な生理学的見解が出来るようになる。</li> <li>・神経内科疾患の症状を理解することで、作業療法治療上でのリスク管理を理解する。</li> </ul>						
授業形式	講義:	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				神経内科疾患の現状を説明できる。	
	○	○				神経内科における各疾患の特徴が説明できる。	
	○	○				神経内科疾患の日常生活上での身体的制約が説明できる。	
	○	○				作業療法士が関わる神経内科疾患の治療実践を説明できる。	
	○	○		○		作業療法の中で神経内科疾患治療の必要性を説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院:標準理学療法学・作業療法学 ~専門基礎分野~ 神経内科学(補助教科書)PT,OT基礎から学ぶ神経内科学ノート:医歯薬出版						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	リハの総論。神経内科におけるリハビリ評価方法。			教科書で予習しておく。		
	2	神経内科に必要な生理、病理、解剖学			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	3	脳Ⅸ神経(前編)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	4	脳Ⅸ神経(後編)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	5	神経内科の検査方法。筋電図、筋生検、CT、MRIなど			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	6	意識障害、記憶			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	7	筋の萎縮、錐体路症状、中枢性麻痺と末梢性麻痺			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	8	錐体外路と不随意運動			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	9	感覚系			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	10	失調症の検査と診断			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	11	高次脳機能障害1(失認、失語、失行)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	12	高次脳機能障害2(失認、失語、失行)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	13	嚥下機能、気管切開、胃ろう			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	14	まとめ①(1回~6回)			まとめプリントを使用して復習しておくこと。教科書で予習しておく。		
	15	まとめ①(7回~12回)					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート 発表・作品						
履修上の注意							

科目名	精神医学						
科目名(英)	Psychiatry						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	島田 洋		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	医師として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年生						
授業概要	本科目では、精神機能の理解から精神疾患の特徴について具体的な症状を含め説明していく。また精神疾患に対する治療法、経過からリハビリテーションにおける対応について学ぶ。また保健、福祉制度について理解していく。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				精神機能や代表的な精神疾患の概要について説明できる。	
	○	○				代表的な精神疾患の症状・治療・予後について説明できる。	
	○	○				精神疾患の方々への医療福祉制度について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:上野武治著、標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第3版 医学書院						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	精神障害の概念・分類				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	2	精神機能、精神症状(1)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	3	精神機能、精神症状(2)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	4	精神機能、精神症状(3)				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	5	脳器質性精神障害、症状性精神障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	6	精神作用物質による障害、てんかん				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	7	統合失調症				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	8	気分(感情)障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	9	神経症性障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	10	パーソナリティ障害など				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	11	知的障害・発達障害				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	12	心身医学、ライフサイクルにおける精神医学				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	13	治療とリハビリテーション				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
	14	精神保健医療、福祉、メンタルヘルス				授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習する。	
15	まとめ講義				国家試験等		
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				100%
	小テスト						
	宿題・レポート						
発表・作品							
履修上の注意							



科目名	評価学Ⅱ						
科目名(英)	Evaluation of Physical TherapyⅡ						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	今山 隆士		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法業務での患者評価など		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部2年						
授業概要	1. 理学療法評価の項目と内容(意味)と必要性について述べ、各検査・測定項目について実施することができる。 2. 測定結果よりその障害像について考察することができる。						
授業形式	講義: △	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○		○			筋力測定の意義を知り、実際に施行出来る。	
		○		○		安全に配慮して実習を行うことができる。	
テキスト・教材 参考図書	1)新・徒手筋力検査法 原著第9版 共同医書出版 2)骨格筋の形と触察法 改訂第2版 大峰閣 3)基礎運動学 第6版 医歯薬出版株式会社						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	運動機能検査 関節可動域測定 復習				教科書の予習しておく。	
	2	運動機能検査 筋力 総論				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	運動機能検査 MMT (肩関節:伸展、外転),運動機能検査 MMT (肩関節:水平外転、水平内転)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	運動機能検査 MMT (肩関節:外旋、内旋),運動機能検査 MMT (肘:屈曲、伸展)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	運動機能検査 MMT (前腕:回外、回内),運動機能検査 MMT (手:屈曲、伸展)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	運動機能検査 MMT (手指:MP屈曲伸展、IP屈曲伸展、内転外転),運動機能検査 MMT (母指:MP/IP屈曲伸展、外転、内転、対立運動)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	運動機能検査 MMT (肩甲骨:外転と上方回旋、挙上、内転),運動機能検査 MMT (肩甲骨:下制と内転、内転と下方回旋、下制)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	運動機能検査 MMT (股:屈曲、股屈曲・外転・膝屈曲位での外旋),運動機能検査 MMT (股:伸展、外転)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	運動機能検査 MMT (股:股屈曲位からの外転、内転),運動機能検査 MMT (股:外旋、内旋)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	運動機能検査 MMT (膝:屈曲、伸展、足:底屈),運動機能検査 MMT (足:背屈ならびに内がえし、内がえし、底屈を伴う外がえし)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	運動機能検査 MMT (母趾と足指:MP屈曲、IP屈曲)、運動機能検査 MMT (母趾と足指MP/IP伸展)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	運動機能検査 MMT (頭部伸展、頸部伸展、頸部複合伸展)、運動機能検査 MMT (頭部屈曲、頸部屈曲、複合屈曲・頸部回旋)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	運動機能検査 MMT (体幹:伸展、骨盤挙上)、運動機能検査 MMT (体幹:屈曲、回旋)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	実技総復習 OSCE(客観的臨床技能試験)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
15	実技総復習 OSCE(客観的臨床技能試験)				教科書の予習しておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
評価方法	(1)授業の中で小テストを毎回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	◎	○	◎			80%
	小テスト			○	○		20%
履修上の注意							

科目名	日常生活活動学 I						
科目名(英)	Activiteis of Daily Living I						
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	筒口さゆり・花田穂積		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院に勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	1. 「ADLの概念と範囲」を説明できる。 2. 「ADLの評価」の意義・目的・実施方法を理解する。 3. 補装具の名称、部位の名称、機能、用途が説明できる。 4. 基本的動作の介助方法(全介助)について説明できる。						
授業形式	講義: ○	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				日常生活活動学の概念、範囲、項目、理学療法の中での位置づけを説明できる。	
	○	○				日常生活活動学とICF、日常生活活動学とQOLのそれぞれの関係を説明できる。	
	○	○	○	○		日常生活活動学の評価について理解し実践できる。	
	○	○	○	○		日常生活活動学における補装具の種類と活用法について理解し実践できる。	
	○	○	○	○		日常生活活動学における基本動作を指導できる。	
テキスト・教材 参考図書	メジカルビュー社: Crosslink 理学療法テキスト 日常生活活動学						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	理学療法におけるADLの位置づけ・概念・範囲			教科書の予習をしておく。		
	2	QOLの概念・IL運動の概念・ADL指導(ICFとICIDH・「できるADL」と「しているADL」)			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	3	評価の意義・目的、評価基準、尺度・評価に際しての留意点・実用性の考え方			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	4	量的評価と質的評価、動作観察・分析とその実際			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	5	FIMとBarthel index			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	6	FIMとBarthel index			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	7	中間テスト			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	8	補装具 杖、歩行器			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	9	基本動作 意義、目的、臥位、寝返りの指導			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	10	基本動作 寝返りの指導			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	11	基本動作 起き上がりの指導			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	12	基本動作 立ち上がりの指導			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	13	基本動作 移乗の指導			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
	14	国家試験問題と解説			教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。		
15	全体復習、試験対策			今までの総復習をしておく。			
評価方法	(1)各授業内容の振り返りとして課題ノートを提出する。(2)前半のまとめとして中間テストを実施する(3)定期試験(筆記)を実施する。成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○	○			80%
	中間テスト	○	○				20%
	発表				○		
履修上の注意							

科目名	運動療法学 I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	30時間	担当者	山口 寿		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験	理学療法士として病院勤務		
対象学科・学年	理学療法学科 夜間部 2年						
授業概要	リハビリテーション医学において、理学療法は治療的側面が物理療法と運動療法に大別される。理学療法は本来治療医学に属し、物理的手段を用いた治療法を特徴とする。運動を通しての理学療法の効果も含め実技多く取り入れ実践的な授業を行っていく。						
授業形式	講義: ◎	演習:	実習:	実技: ○	※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				理学療法における運動療法の位置づけ、方法論を説明できる。	
	○	○				運動療法の定義、目的、種類を説明できる。	
	○	○	○	○		関節可動域制限に対する評価と治療の理論を説明し実践できる。	
	○	○	○	○		関節可動域制限の因子について列挙し理解し説明できる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書: 1)市橋則明 編:運動療法学 第2版 障害別アプローチの理論と実際. 文光堂						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	運動療法総論・関節の構造の復習 関節の構造・伸びる組織・伸びにくい組織				教科書の該当範囲を事前に読んでおくこと。 運動学の復習を行っておくこと。	
	2	関節可動域運動 総論(種類と目的)・他動関節可動域運動				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	3	他動関節可動域運動① 上肢・下肢				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	4	伸張運動①:伸張運動の生理学的機序・実際				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	5	伸張運動②:下肢 ハムストリングス・大殿筋・大腿四頭筋				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	6	伸張運動③:下肢 下腿三頭筋・股関節内転筋群 他				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	7	伸張運動④:体幹・頸部				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	8	中間テスト				授業資料のまとめを復習しておく。	
	9	関節モビライゼーション①:目的・方法				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	10	関節モビライゼーション②:実際 上肢				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	11	関節モビライゼーション③:実際 下肢				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	12	関節可動域測定結果の解釈とアプローチの実際①				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	13	関節可動域測定結果の解釈とアプローチの実際②				教科書の予習をしておく。 授業資料のまとめを復習しておく。	
	14	実技の振り返り				動画を確認し実技内容を学生間で練習し実技試験に臨むこと。	
15	授業総復習				これまでの講義内容を復習し、理解しておくこと。		
評価方法	(1)単元のまとめとして中間テストを実施する。 (2)定期試験(実技、筆記)を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○	○			80%
	中間テスト	○	○				20%
履修上の注意	定期試験には実技試験も含まれます。						